学校だより

第８号 ジャカルタ日本人学校
令和７年(2025 年) 11 月 26 日
発行：校長　谷口幸一郎
ＴＥＬ ： ０２１－７４５－４１３０

公開授業、参観ありがとうございました。

公開授業（中学部　合唱コンクール）が行われました。いつもたくさんの保護者の皆様に参観いただき、**感謝申し上げます。**お子様の様子はいかがだったでしょうか。

小学部１年生のある学級では学級会（学級活動）が行われていて、「お楽しみ会」でどんな遊びやゲームをするかを話し合っていました。学級会が子供たちでできるよう、司会や書記の係も決められており、進行に従って、会が運営されていました。１年生なりに自分の思いをしっかりと述べていました。また、３年生では「**百人一首**」を行っていて、担任も**着物を着て上の句を詠み上げ、子供たちは対戦形式で、下の句を選んでいました。**思ったよりも素早く下の句を選ぶ姿に驚きました。

また、中学部では合唱祭が１年生から３年生までの６組によるコンペティション形式で行われました。私も審査員の一人をさせてもらいましたが、どの組も一生懸命歌っていました。審査は**①発表態度　②声の大きさ　③声のバランス　④曲想　⑤まとまり**、それぞれ１０点の合計５０点で行われました。結果、**２年２組が１位**になりましたが、どのクラスもよく頑張っていたと思います。そして、最後に学年合唱、全体合唱が行われました。いつも感じることですが、このような学校行事は当日の発表までに様々な学級での出来事があります。例えば、合唱祭では、「指揮者、伴奏者をだれにするか。」「合唱曲は他のクラスの合唱曲がよかった。」「練習に参加してくれない。」「なかなか、真面目に歌ってくれない。」など、各人が様々な思いを抱きます。そのような小さな葛藤をとおして、本番を迎えるのですが、結局、終わってしまうと、**それもいい思い出**になります。青年期の中学生は**純粋な気持ちで学校行事に取り組んだ結果、様々なドラマが学級で起こるのだと思っています。**何事も**「頑張れば感動**」です。

トヨタ自動車訪問

５年生が社会の授業で、トヨタ自動車インドネシア工場の現場に学習に行きました。名前の入った帽子ももらったようで、とても満足して帰ってきました。

以前トヨタには世界で果たさなければならないミッションがあるという話を聞いたことがあります。その一つに**社会貢献（TEPE=Tax, Employment, Product, Environment）**があり、単純に物を作って利益を得るだけではなく、生産国や世界にどのように貢献できるのかを考える必要があるということです。この TEPE はトヨタの社是にもなっているそうです。また、こんな話を伺いました。

国際人とは、**「海外で暮らせば国際人になるわけではない。」**

① 感じたことを大切にする⇒（なぜなのか考えること）
② よいところを見つける癖を付ける⇒（現地国の人が日本人より優れている点を５つ上げる）
③ 日本人が特異であることを自覚する。
④ 学び続けることが大切

国際人とは、自国や他国のいいところ、悪いところを理解した上で両国のためになることができる人である。

AI を使った授業

４年生の国語で、子供たちがまとめた文章を**AI からアドバイスをもらうという授業が**行なわれました。自らが書いた文章をタブレットに打ち込むと、それに対して「〇〇部分の表現が分かりづらい」、「一つ一つ説明するのではなく、文章をまとめた方がいい。」など、返事が返ってきます。これからの授業の在り方を示唆する授業でした。

本校では、どのような AI 活用ができるのか、中学部の教務を中心に授業で取り組んでいます。もちろん、費用対効果を考えながら、より分かりやすく、子供たちが主体的に授業に取り組めるよう **AI の可能性**を探っていこうと思います。

スラバヤでの経験

先日、国際交流基金ジャカルタ日本文化センター事業の一環で、「**Education in ASEAN**」のテーマの下、スラバヤの AIRLANGGA 大学でパネリストとして日本の教育についてお話をさせていただきました。約 150 人のオンサイト出席者に加えて、オンラインで多数の学生さんが視聴していました。

学生から質問がいくつか出たので、そのうちのいくつかを紹介します。**①学校の教育の水準をどのように保っているのか。（地域格差がある。）②国のトップが変わることにより、教育の方向が変わってしまう。③教員の質をどのように保てばいいのか。**⇒①　日本には学習指導要領があり、指導する教育内容の基準になっている。これを確実に守らせる必要がある。②　日本ではトップが代わっても教育の内容は変わらない。（質問した学生さんが大臣になってくれることを期待する）　③　日本では教員の悉皆研修がとても多くあり、校長になってもいくつかの研修には出なくてはならない。

以上のように、私を含め、他のパネリストで応えました。インドネシアの学生さんからすると、**日本の教育システムはとても機能的であり、そこで学べる日本人はとても幸せ**であるという雰囲気でした。

さて、日本の教育のことを少し述べたいと思います。ご案内のとおり、我が国の庶民の教育は寺子屋から始まっています。「鎌倉時代に、お寺のお坊さんが、稚児やお寺で使っている子供たちに読み書きを教えていたのが寺子屋の始まりで、その後、盛衰を繰り返しながら無くなることもなく、江戸時代に入ると爆発的に広まっていったそうです。

江戸幕府は（**民は知らしむべからず**）が方針であったらしいが、それとは逆行する動きになっていました。当時は、外様大名の取りつぶしを次々に行った結果、**禄を失った浪人達が**生活の手段として、**学習塾を開いて**いきました。入学年齢は８歳前後で、期間は３年から５年。ほとんど男女共学でしたが、武士と商人の子は座る場所が別で、話し方も違っていたそうです。

寺子屋で使われていた教科書は、決まったものはなく、絵草紙を使ったり、「**往来物**」と呼ばれる書物を使っていたりしていたそうです。この往来物を教科書として使い始めたのが鎌倉時代で、いろいろと便利だったようです。江戸期の代表的なものとしては「商売往来」「百姓往来」「諸職往来」などで、その他いろいろな往来物が出版され、江戸時代には約３千を越えていたということです。その中で寺子屋のほとんどが使っていたというものが「文章往来」でした。ちなみに我が国の最初の教科書は平安末期に使われていた「明衛往来（メイゴウ）」（藤原明衛が編纂したもの）ということです。（商売往来は「商い正傳－金と銀－　髙田郁　作」にも出てきます。主人公の女の子が商売往来を男子が習っているのを聞いて学ぶという一節にあります。）

今の教科書は、検定本といった文科省の検査が入ったものになります。各地で検定教科書の採択協議会を踏まえて、教科書が決まります。つまり、同じ東京都でも各市で教科書が異なっています。日本人学校の教科書は日本中で一番、採択の多い教科書を使っています。そして、教科書は無償となっています。

（教科用図書無償給与法）